JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	特集「我々の知識を拡げるコラボレーション技術」の編集にあたって
Author(s)	由井薗，隆也
Citation	情報処理学会論文誌，53(1): 1-2
Issue Date	2012-01-15
Type	Journal Article
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/11466
Rights	社団法人　情報処理学会，由井薗隆也，情報処理学会論文誌，53(1)，2012，1-2.　ここに掲載した著作物の利用に関する注意: 本著作物の著作権は（社）情報処理学会に帰属します。本著作物は著作権者である情報処理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては「著作権法」ならびに「情報処理学会倫理綱領」に従うことをお願いいたします。 Notice for the use of this material: The copyright of this material is retained by the Information Processing Society of Japan (IPSJ). This material is published on this web site with the agreement of the author (s) and the IPSJ. Please be complied with Copyright Law of Japan and the Code of Ethics of the IPSJ if any users wish to reproduce, make derivative work, distribute or make available to the public any part or whole thereof. All Rights Reserved, Copyright (C) Information Processing Society of Japan.
Description	

JAIST
JAPAN ADVANCED INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

情報処理学会論文誌　Vol.53　No.1　1–2 (Jan. 2012)

特集「我々の知識を拡げるコラボレーション技術」の編集にあたって

由井薗 隆也[1,a)]

現代は，知識が資源として価値を持つ知識社会ともいわれ，先進国にいる労働者の過半数はサービス産業などの第三次産業に従事している．知識社会における知識の価値は，科学者や哲学者が探求してきた真理の発見といった新規性のみに依存するだけではなく，多くの人々が知識を，日常生活，サービス，デザインなどの行動に使用するイノベーション・普及によって高まる．

その中，情報通信技術は我々の生活に広く深く普及している．家庭，会社，学校等における固定した場所での利用から，通勤，散歩，買い物，観光といった移動中の利用も日常的である．その普及から生まれたネットワーク利用は，我々の予想を超えた発展をみせ，10 年前の個人では持ち得なかったようなデータ・情報を手に入れることができ，それらを用いて行動の規範となる知識を増やすことができる．

一方，各種センサ・計測技術を用いると可観測なデータが増え，従来では技術対象として困難であったデータ・情報を取得でき，暗黙的にしか知ることができないとされてきた知識も技術対象にできる．また，コラボレーション技術の伝統的目標であるアウェアネス支援，感情通信といった技術もインフォーマルな知識の共有・伝達という観点から重要である．さらに，サービス科学，脳科学，スキル科学，ロボット工学，ライフログといった人間理解を進める科学技術分野からの貢献も期待できる．つまり，情報通信技術は形式・記号的な知識を支援するだけでなく，人間の感覚に着目した異なる質の知識も支援対象とすることができる．

本特集では，このような情報通信技術の革新的普及によって，我々の知識を拡げるコラボレーション技術に注目した．

本特集には，31 件の論文が投稿された．第 1 回目の編集委員会を 2011 年 4 月に，第 2 回目を 7 月に，第 3 回目を 9 月に開催し，慎重な審議の結果，16 件が採録され，採択率は 52%となった．第 1 回目の査読判定において，23 件の論文を条件付採録と判定した．第 2 回目の査読判定において，23 件の条件付採録の論文のうち 16 件を採録と判定した．

採録された論文はコラボレーション技術の幅広い応用領域を反映し，ネットワークの社会活用から人間感覚に着目した研究を含むものであり，「Web 情報」，「業務情報」，「多言語情報」，「メディア処理」，「教育支援」，「プログラミング教育」を対象とする最新の「我々の知識を拡げる」コラボレーション技術に関する優れた論文を掲載することができた．残念ながら不採録となった論文は興味深いテーマであるが，グループウェアとネットワークサービスに関する研究として新規性・有用性において論文としてのレベルが達成されていないものであった．第 1 回目の査読判定において条件付採録と判定されたが，第 2 回目の査読判定において不採択になった論文は，採録条件への対応が不十分と判定したものである．投稿者の皆様方にあたっては，今後とも，本分野の発展のために，新たな研究や論文改善に取り組み，新たな論文投稿や再投稿していただくことを強く希望する．

最後に，本特集の編集にあたって，様々な面からご協力いただいた小川剛史幹事をはじめとする編集委員，査読者の皆様に深く感謝する．

「我々の知識を拡げるコラボレーション技術」特集号編集委員会

- 編集長
  由井薗隆也（北陸先端科学技術大学院大学）
- 幹事
  小川剛史（東京大学）
- 編集委員（五十音順）
  市村　哲（東京工科大学），井上亮文（東京工科大学），井上智雄（筑波大学），大平雅雄（奈良先端科学技術大学院大学），岡田謙一（慶應義塾大学），緒方広明（徳島大学），岡原弘典（三菱電機），岡本昌之（東芝），金井秀明（北陸先端科学技術大学院大学），金子　聡（日本アイ・ビー・エム・サービス），葛岡英明（筑波大学），粂　照宣（富士通研究所），小林　稔（NTT），斉藤典明

1　北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科
School of Knowledge Science, Japan Advanced Institute of Science and Engineering, Nomi, Ishikawa 923–1292, Japan
a)　yuizono@jaist.ac.jp

© 2012 Information Processing Society of Japan

（NTT），酒井三四郎（静岡大），高橋正道（富士ゼロックス），多田昌裕（ATR），櫨山淳雄（東京学芸大学），宗森　純（和歌山大学），吉野　孝（和歌山大学）

© 2012 Information Processing Society of Japan